グラフ

みんなの県政

庄川にかかる長崎大橋は46年6月完成
大自然の開発と地域振興をはかる拠点である

NO.1 昭和47年

▲常願寺川河口付近を最良の住み家とするサギの群

愛と繁栄の県政

住みよい富山県をつくる

富山県に繁栄をもたらす

若い世代を育てる

この3ツの施策を基調として　自然と人間が調和しあう　豊かな高度福祉社会を築くことが　私の願いである

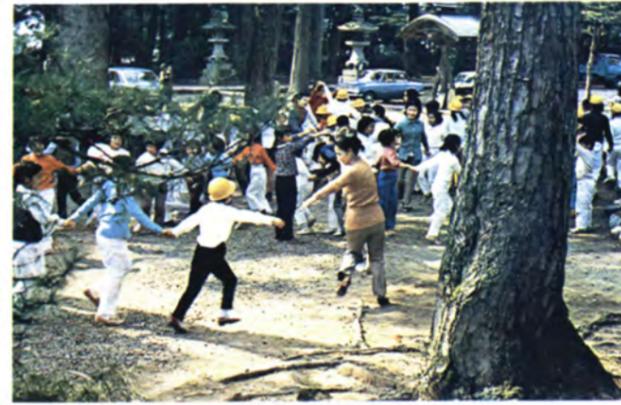
富山県知事　中　田　幸　吉

▲県庁屋上で子どもたちと鯉のぼりをあげる中田知事

若い世代を育てる

緑に親しもう

土に親しみ、緑をしたう人間の本能を満たし、健全なレクリエーションの場「県民公園」が、富山と高岡の中間にできる。

都市化や産業開発などが急速に進むとき、この計画のすばらしさに期待が寄せられている。

▲親子ぐるみで楽しむレクリエーション

▲たのしい県民公園の予定地　手前は頼成山

県民公園の構想マンガ

県民公園

←高岡

北陸自動車

宿泊施設

民家村

キャンプ場

森林公園

放牧場

砺波

野外音楽センター

ゴーカート

ガラクタ広場

野外劇場

児童館

子供の国

自然動物園

自然植物園・フラワーセンター・大温室

散歩自転車道

成果あがる青年の船

第１回富山県青年の船は、一行 114名を乗せて、昨年９月27日富山新港を出発（開港初の客船出航）。韓国・台湾・香港を歴訪。見聞を広め、各国親善の役目を果した。いま、参加した団員はお互いに地域発展の推進力として、活躍をしている。

今年はシベリヤを中心に、ソ連を訪問。日本一のソ連材輸入県である、富山県の若者が訪問するとあって、期待がたかまっている。

▼ 富山新港から出発

▶第1回青年の船に乗って

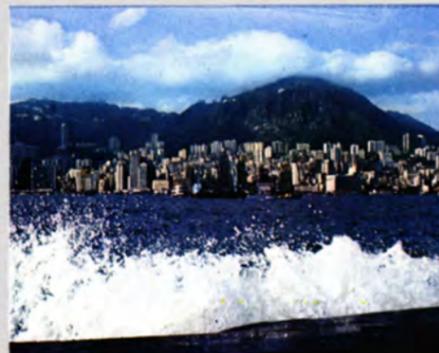
▲青年の船展で次代の青年らに期待をかける中田知事

▲テープは切れてしばしの別れ

▲日本丸の客室で知事と対談のひととき

▲はじめて見る異国の地－釜山港－

▲韓国の市民風景

▲船内での交流

▲国際都市香港の全景

▲香港名物のタイガーバーム庭園

▲台湾のバナナ畠にて

▲中国文化の殿堂－国立故宮博物館－

▲韓国学生との交歓風景

スポーツを育てる

健康で明るい県民生活を築くためには、老若を問わずスポーツは欠くことができない。
夜間の学校施設を解放してのスポーツ熱はさかんになった。市町村の体力つくり運動も盛りあがってきた。
県立武道館も近日中にオープン。スポーツ振興はいよいよ拍車がかかる。

▲ サッカー広場で元気よくウオーミングアップ

▲「ライトの下ではネ」といいながらも　なかなか上手に打ちかわす卓球練習―富山市清水小学校―

充実される教育

生涯を通じての人間形成の場である学校教育は、個性に即した能力が十分に発揮できるよう配慮される。教職員の研修・研究センターも充実して、教育水準の向上をめざす本県には、心豊かな健康な次代の若者が育っていく。

▲アナライザー（集団反応測定装置）を使用しての学習で成果はグンとあがる　―富山市南部中学校―

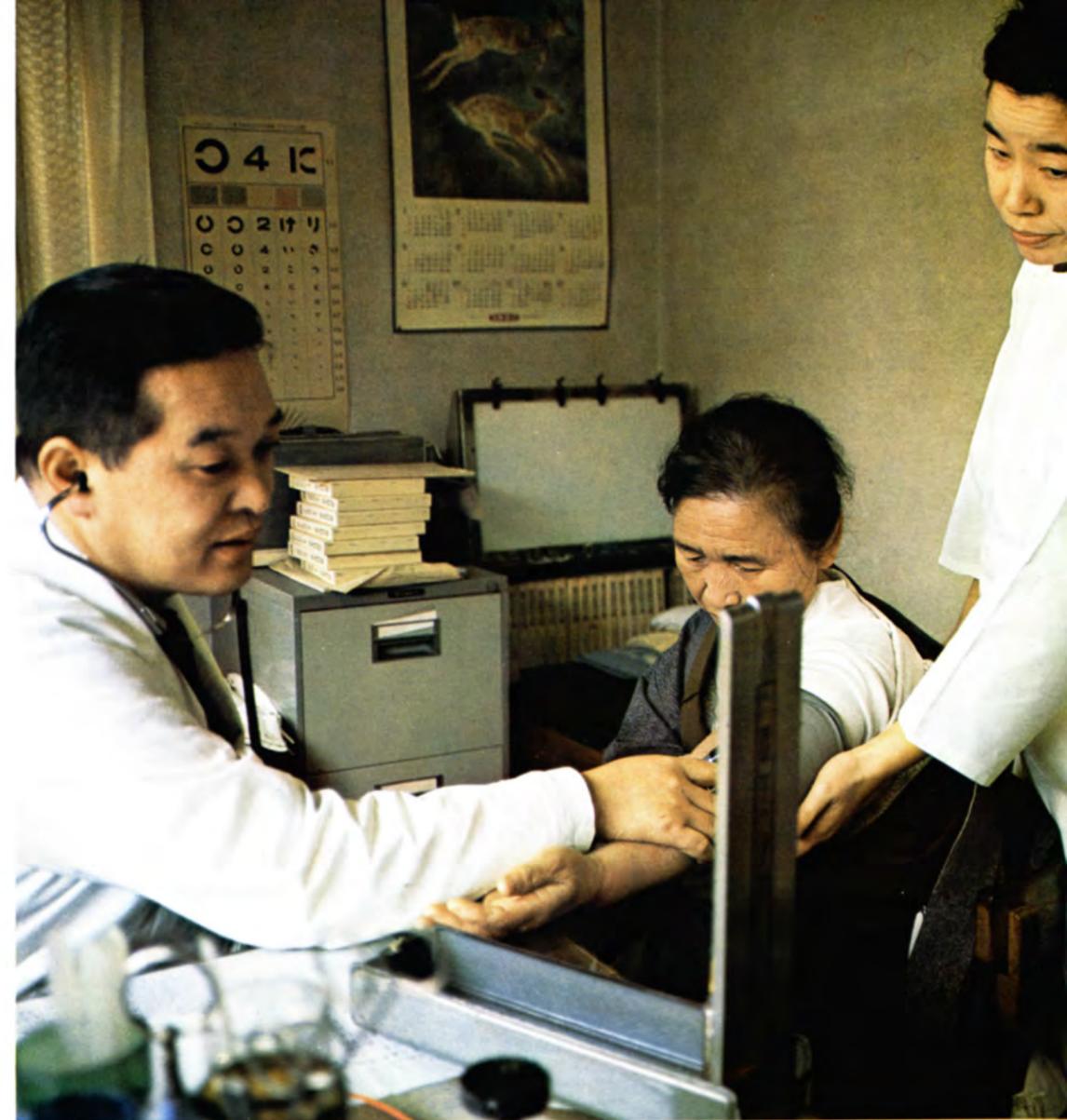
住みよい富山県をつくる

前進する県民の福祉

《社会福祉の充実》を大きく前進させたいと意欲まんまんの本県では、まず老人医療費の公費負担をトップに、不幸な星を抱いて生きる子どもらや、精薄者の施設充実、上下水道の完備、道路網の拡充整備　etc………。

問題は多い。しかし県民の福祉のないところに豊かな発展はないと、各面にわたり、十分な検討と措置がとられている。

▲呉羽山に建つ勤労者のいこいの場呉羽ハイツは5月1日オープン

▲「不自由なのだから」とあきらめず身体も心もきたえるのだと

▲〈おばあちゃん　まだまだ大丈夫だよ〉うれしい健康診断

▲この顔の年輪に　いつまでもいつまでもしあわせが……

消費者のために

かしこい消費者づくりのために、待望の《消費者生活センター》が昨年７月県民会館内にオープン。

「消費者保護基本法」の趣旨にそって設けられた、消費者行政の活動の拠点。このセンターは、商品テスト・消費者啓発・苦情相談を３本の柱にして、消費生活リーダーの養成や、移動相談にもでかけるなど、理論より実践をモットーに、積極的に取り組んでいる。より豊かな、あすの生活を築くために——。

また、不良食品を一掃しようと、保健所を中心に食品監視の目が光る。

▲食品Ｇメンの活躍で　毎日の食卓は大丈夫

▼「商品テストは家庭でも簡単にできるものもありますよ」と熱心な説明に主婦らはコックリとうなずく

▲移動消費生活センターではいろんな相談が待ちかまえている

消費者４ツの態度

■聞く

■見る

■考える

■試みる

消費者４ツの権利

●知らされる

●選択できる

●安全である

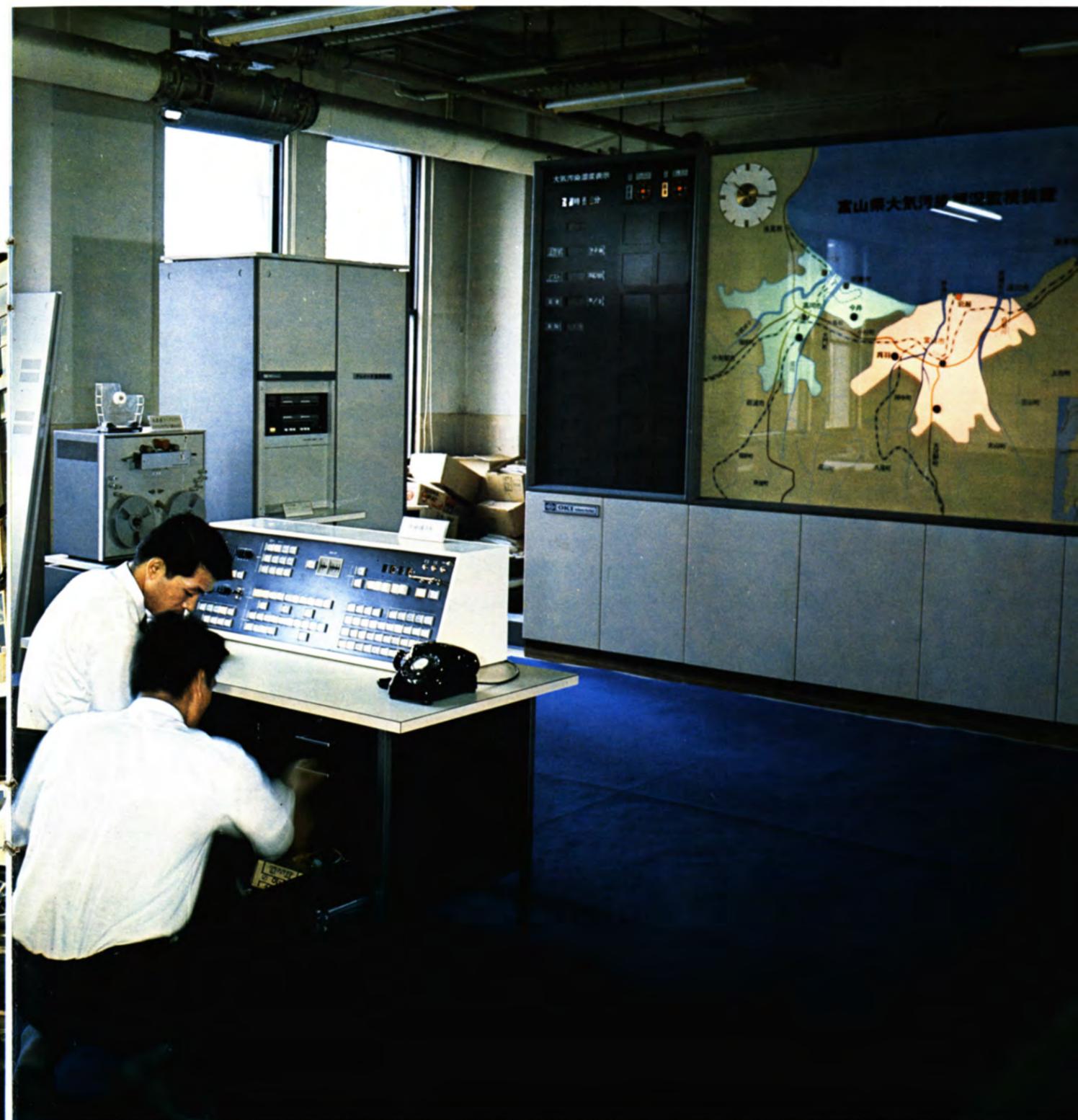
●意見が反映される

富山県消費生活センターは県民会館内にあります

公害から県土を守ろう

《公害》と一口にいっても、そのよってきたる原因なり現象は数多く、それぞれに住民の生活環境をおびやかし、自然環境を破壊するという因果関係をもっている。
高度成長経済下の重化学工業化が、自然の浄化能力を上まわり、人口集中による、都市環境整備の遅れなどが生んだこの公害。県ではこの問題と真剣に取り組み、あらゆる手段を駆使して、原因の追求調査、研究など、防止のための努力を重ねている。

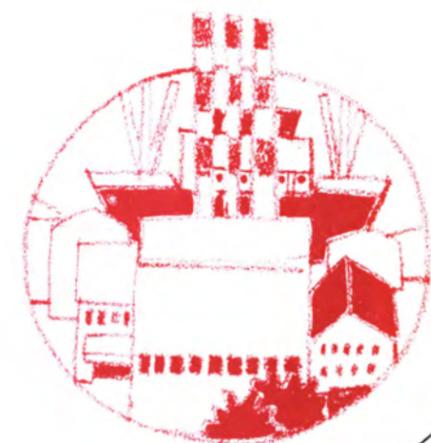
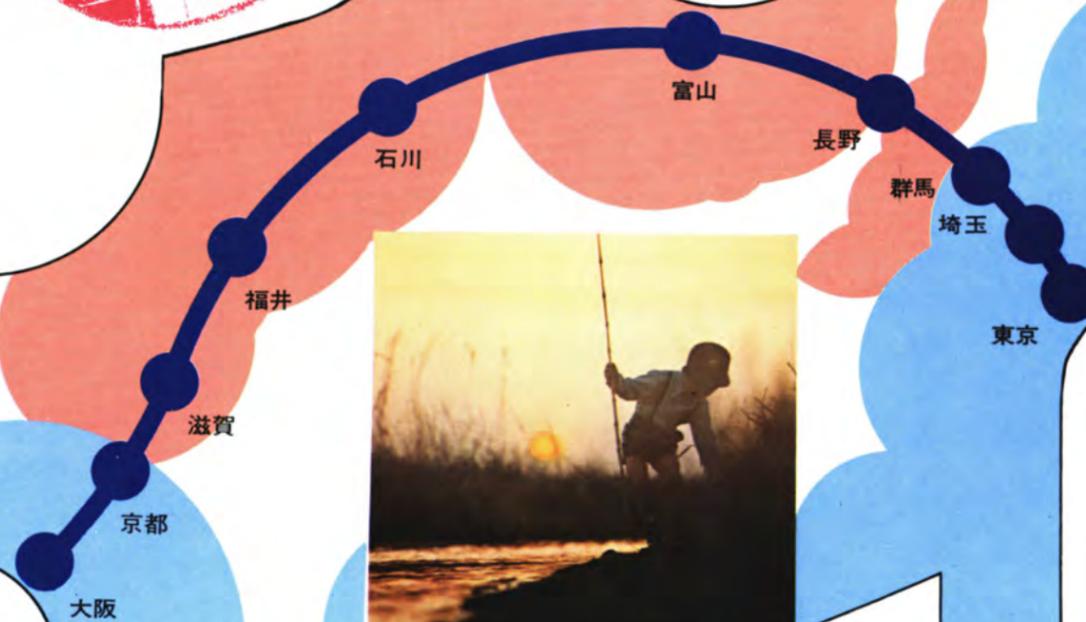
▼県庁内に設置されている大気監視テレメーター

▲自動車の排気ガスなどによる　大気汚染を常時測定している

富山県に繁栄をもたらす

基幹交通網の整備

百万県民の夢である、富山を中心にした関東・関西を日帰り圏にという、超特急列車が走る北回り新幹線が実現する運びになった。どこへいってもキレイに舗装された道路。車がスムーズに走れる快適な道路。雪が降っても交通網を確保したいなど、交通網の整備は、国・県・市町村、それぞれに進められている。ことに北陸高速自動車道や、富山・高岡バイパスなどの基幹交通網の工事は、急ピッチ。

着々と進む北陸高速自動車道建設工事—砺波市—

▼富山・高岡バイパスで交通じゅうたい緩和

くらしを支える農林・漁業

▲急速にのびる野菜や草花のビニールハウス団地

▲チューリップの見事なじゅうたん

農業の近代化をはかる圃場整備は各地で進む

農・林・漁業は
美しい自然にはぐくまれ
われらの祖先が築いて

国民の暮らしをささえ
あらゆる産業の礎となって
幾多の困難を乗り越えてきた

明日の社会へ活力を注ぐため
英知と勇気と誇りをもって
新しい道をひらき
さらに発展していこう

▲流氷が浮かぶ北洋で県人の乗るカニ工船が活躍する

▲富山湾の味　ズワイガニ

自然を美しく
観光の富山

日本の屋根《立山連峰》は、富山県の象徴。ながい間、厚いベールに包まれていた信仰の山山へ、いまは立山・黒部アルペンルートが開通。四季を問わず、その真下にたつことができる。
日本のチベットといわれた秘境五ヵ山もいまはレジャー時代に乗って、観光地として脚光を浴びている。
自然を愛し、自然に親しみながら遊ぶ観光富山の一日。そこには楽しい団らんがあり、美しい人生の語らいがある。

▼宮家としてはじめて五ヵ山へおいでになり相倉合掌集落でおくつろぎになる常陸宮ご夫妻（昭和46年8月）

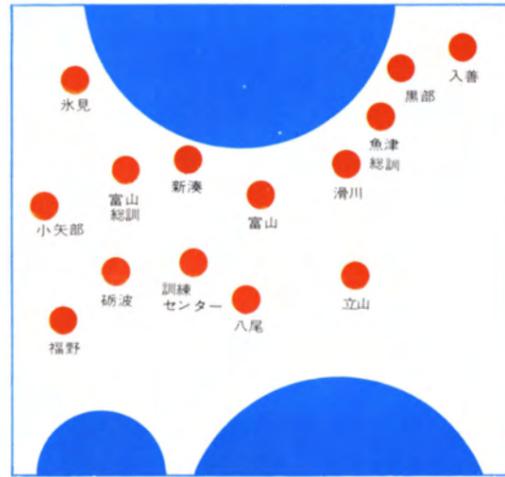
▼富山県の歴史のふるさと氷見海岸から立山連峰を見る

▼立山・黒部アルペンルートの花形

▼地獄谷のいおうの香りを流す　美しいソーメン滝と立山の主峰「雄山」

技能を身につけよう

たゆみなく進歩する経済社会の原動力になるのは、優秀な技能者である。県内には、高等技能学校など《技能を身につける》施設が14カ所ある。この施設から巣立った生徒は、県内産業の中堅として、指導者として、その役割を果している。また中高年令層の能力再開発（転職）訓練も、各方面から喜ばれている。

高等技能学校の配置図

▼くわやペンをノコギリに変えて再度社会に貢献を

対岸貿易の拠点〈富山〉

国際経済情勢の変化に対し、新しい市場の開拓にも心しながら、日本一のソ連材輸入県として着実に発展、対岸貿易県として果す役割は、これからもっともっと大きくなる。

港湾施設の整備も着々とすすみ、各港の機能がフル運転する日は近い。

▲ソ連材が山積みされる富山港

NO. 1

グラフみんなの県政

発行 昭和47年4月1日
編集 富山県県民課
印刷 株式会社チューエツ